CAMPUS KOSEI

キャンパス こうせい

vol.28

HACHINOHE GAKUIN

◆ロゴマークとシンボルカラーの由来

◆　八戸学院グループがシンボルマークに込めた想いは「八戸を愛する心」と「無限の可能性」です。「8」という数字は八戸の「8」であるだけでなく無限を表す「∞インフィニティ」の意味を含んでいます。もう一つ込められたのが八戸を中心とする南部地方の女性が麻布を温かく着るためにまた補強のために心を込め木綿糸で一針ごとに菱形に埋めていく「菱刺」ヒシザシをイメージしています。八戸の精神の連綿と受け継いでいく気概をシンボルマークに込めています。

◆　シンボルカラーは日本固有の伝統色から選定した臙脂色（えんじいろ）です。内に秘めた情熱を持ちながら、冷静、沈着な思考力と行動力に富む人をイメージしています。古くから画の材料や工芸の染料として使われ、正倉院宝物にも残されています。

キャンパスこうせい第28号　2013(平成25年)年2月22日発行

2013年 新年の集い（理事長あい

「新しい葡萄酒を新し

毎年恒例の「新年の集い」が、平成25年１月14日㈪正午から八戸パークホテルで開催され、法人内外の関係者約380名が出席した。会場では開宴30分前から箏曲演奏が響き、新年らしい雰囲気の中、八戸大学木鎌耕一郎教授による新年の祈り、中村覺理事長の年頭の挨拶、大谷真樹八戸大学長の乾杯の音頭によって、和やかに2013年がスタートした。

なお、中村覺理事長の挨拶の中で、来年度からの校名変更に伴う「シンボルマーク」等が披露され、さらには、平成25年４月１日付で法官新一副理事長が新理事長に就任し、中村覺現理事長は新たに設置する「学院主」に就任することが発表された。

理事長　中村　覺

新年、明けましておめでとうございます。本日は、来賓の方々のご臨席をいただく中で、教職員がそろって集い、共に新しい年の始まりを祝うことができますことに、まずもって感謝申しあげます。

昨年は、幼稚園から大学にいたる各学校が、例年になく共に教育全般に活発な活動が展開できた年でありました。中でも特筆すべきは、光星高校硬式野球部が、春・夏続けて、そして三季連続で甲子園準優勝を飾った快挙であります。勿論これは、皆々様からの力強い応援の賜ものでありますが、県南地方の地域振興に少なからず貢献できたものと考えております。

そうした中で、学院として最大のテーマとして取り組みましたのが、本法人が設置する幼稚園から大学まで、全校の名称の統一性を目指した校名変更でありました。この名称統一と校名変更の問題は、私が理事長に就任してからの十有余年の間にも、折に触れて問われてきたテーマでありました。こうした流れも受け止めつつ、関係各位と入念に協議し、校名変更に踏み切ったところであります。ここに改めて、新たな学校名を高く掲げ、この校名を体しつつ、新しい年の取り組みの、誓いの場といたしたいと存じます。（新校名を会場内のスクリーンに映写）

さて、この校名変更は、単なる名称の統一だけを目的とするものではありません。本法人の各学校における、一貫教育としての指導体制の再構築に向けた新たな体制作りと、学校間連携の強化が第一のテーマであります。一方、国の文教政策にも新たな動きがあります。中でも、学校設置や改組等の各種申請に関する諸条件と基準の変更、さらにはキャリア教育としての視点から、教育方法や教育内容に関わる諸課題の要請に対する取り組みも、同時並行的に進める必要が出てまいりました。こうした背景を踏まえ、法人として、この校名の統一と変更は、光星学院の厳しい諸条件克服の、新しい転換期と受けとめることが最善と判断しての決断でありました。

今回の校名変更、そして新しい課題の山積は、「理事長として新年をどう迎えるべきか」という、自分自身への素朴な問いかけの始まりでもありました。特に、この４月からの新しい教育の展開は、教育の中身に関することが多いことに照らし、「教育現場に明るく、教育内容の検討にも直接関わりうる理事長像への期待」を強く意識する問題でもありました。

この時にどうすべきかを考えあぐねておりました時に、ふと思い浮かんだのが、新約聖書に出てまいります、「新しい葡萄酒は、新しい革袋に」という箴言でありました。マタイ伝第９章に出てくる戒めの言葉でありますが、「人は新しい葡萄酒を古い革袋に入れるようなことはしない。そのようなことをすれば革袋が裂けて葡萄酒が流れてしまい、革袋もだめになる。新しい葡萄酒を新しい革袋にいれれば両方とも長持ちする。」という教えでありました。今回の校名

さつ）

い革袋に」（マタイ伝第9章）

シンボルマーク・新理事長 発表

変更に加えて、かつてない教育の中身に関わる改革と改善への取り組みは、新しい葡萄酒の醸造にあたります。このためには、新たな体制への衣替えを図って、その中で新しい教育への展開を醸し出していくことが必要であると、確信するに至りました。この確信は、様々な経緯を経て、昨年の12月に入ってのことでありましたが、迎えたこの平成25年は、光星学院が昭和34年３月に、学校法人としての正式認可を受けてから55年目に当る年でもあります。私がこの結論を導き出すに至ったのは、これまでの55年間の歴史的な重みを踏まえたものであり、また決断の時でもあるとの確信でもありました。当然、私のこの考えは、理事会・評議員会のご意見、ご決定を仰ぐ必要があるわけですが、本日、そのご審議も無事に終え、快くご了解が得られたことから、私は、この３月末日をもって理事長の職を辞し、新しい方にバトンタッチすることといたしました。

本日は、皆様お揃いの席で、良い機会でもあると考えまして、私の思いとすることをお話ししながら、ご報告に至った次第であります。そして、その新しい理事長には、理事会・評議員会のご賛意を得て、これまで常務理事、副理事長としての実績に加え、校長職など長年の教員歴から教育現場にも大変精通している、法官副理事長に就任していただくことが決定いたしましたことを、ご報告申しあげます。私は、３月までは理事長としての職務に専心いたしますが、新年度の諸課題等については、できるだけ新理事長のもとでご検討いただき、新たな体制作りを固めつつ、４月を迎えたいと考えております。

新年の集いのご挨拶が、私の理事長交代のご報告となってしまいましたが、これもまた、光星学院の新しい年の出発の誓いと受け止めていただき、本年も変わらぬご支援、ご協力をお願い申しあげ、ご挨拶といたします。

八戸学院「シンボルマーク」発表

◆八戸学院大学	（八戸大学）
◆八戸学院短期大学	（八戸短期大学）
◆八戸学院光星高等学校	（光星学院高等学校）
◆八戸学院光星高等学校専攻科	（光星学院高等学校専攻科）
◆八戸学院野辺地西高等学校	（光星学院野辺地西高等学校）
◆八戸学院短期大学附属幼稚園	（八戸短期大学附属幼稚園）
◆八戸学院短期大学附属幼稚園聖アンナ	（八戸短期大学附属聖アンナ幼稚園）
◆八戸学院短期大学附属幼稚園びわの	（八戸短期大学附属びわの幼稚園）
◆八戸学院短期大学附属幼稚園第二しののめ	（八戸短期大学附属第二しののめ幼稚園）

＊（　　）内は現校名

学校法人八洲学園と連携協力協定締結

学校法人光星学院は平成24年11月15日、教育・研究・社会貢献等の諸活動を推進し、さまざまな領域における包括的な連携を進めることを目指し、学校法人八洲学園と連携協力協定を締結した。これは、東北地方を中心に地域社会の発展に貢献している本学院と、通信制教育のパイオニアとして常に新しいことに挑戦し続けている八洲学園が、各々の保有する知的資源、人的資源の交流・活用を通じて、新たな幅広い協力関係を円滑に進めるための協定である。

調印式には、光星学院側から中村覺理事長、大谷真樹八戸大学長、八洲学園側からは和田公人理事長が出席、中村理事長と和田理事長が協定書にサインをし、今後の連携に向けて握手を交わした。

両法人からは、大学・短大生や高校生はもとより社会人の生涯学習の機会が増えるなど、地域活性化の原動力になるとの方向性を確認しながら、お互いの持つ資源を有効に活用し更なる発展を目指し連携を強化して取り組みを進めたいと述べられた。

第18回就職合宿の開催

平成24年11月10日(土)・11日(日)1泊2日の日程で三沢市の星野リゾート「青森屋」において、株式会社マイナビ、企業の人事担当者を講師に招き第18回就職合宿が開催されました。

八戸大学のビジネス学部・人間健康学部の3年生、八戸短期大学ライフデザイン学科の1年生を対象としたこのイベントでは、就職活動の基礎作りとして徹底した自己分析から始まり、自己PR・学生時代に力を注いだことをグループワーク形式で取り組みました。

夕食後は「求められる人材・エントリーシート・採用選考で知りたいことについて」をテーマに企業の人事担当者をパネラーとしたパネルディスカッションが行われました。

その後は各自が作成した自己PR・学生時代に力を注いだことの作成と添削などと初日は21時30分を過ぎる過密なスケジュールをこなしました。

2日目は1回目の模擬面接、さらに2回目の模擬面接と面接指導を中心に進められました。実践的で様々な質問が飛び交う中、真剣に、かつ積極的に取り組んでいた学生たちは、12月1日からの就職活動スタートを切るに当たって、大きく成長したようです。

八戸大学 八戸短期大学 合同企業研究会

平成24年12月12日㈬八戸プラザホテルアーバンホールにおいて、県内外から58社の企業における採用担当者の方々をお招きした合同企業研究会が開催されました。

この合同企業研究会には八戸大学の３年生、八戸短期大学ライフデザイン学科の１年生を中心に100余名の学生が参加。特に、11月の就職合宿で面接指導等を受けた学生たちの積極的な姿が企業側にも好印象で、「就職活動への取り組む姿勢がすばらしく、熱意が感じられました。」、「ぜひとも採用したい学生数名に対して説明することができ、有意義でありました。」といったお言葉を頂きました。

面談を終えた学生達からは、「説明を聞く前と後では印象が違った」、「興味のある企業が見つかった」など希望する業界や職種の糸口を見つけた様子で、12月１日より解禁された就職活動を順調にスタートすることができました。また反面、「企業の選択方法がよく分らない。」、「専門用語が理解できずに困った。」、「面接方法が不安。」などの課題も見えてきました。面談を通して自分の課題を意識する事ができたことによって就職活動を本格的にスタートさせるきっかけに繋がったようです。

あおもりツーリズム創発塾八大
－2012八戸観光大学－

９月15日・10月27日・12月1日の全３回（土曜日）にわたり、あおもり観光人財育成事業「あおもりツーリズム創発塾八大」が開講され、八戸周辺地域の観光関連に携わる方、経営者などを中心に延べ90名が受講した。本事業は青森県からの委託を受けて、地域や仕事の垣根を超えて、観光や地域づくりに関わる方々のモチベーションと実施力を高めることを目的に八戸大学、青森中央学院大学、弘前大学の３大学を拠点に開催する人材育成講座である。本学では、「実践への契機は何か、どうすれば実践の継続は可能となるのか」という視点で、単なる成功事例の紹介にとどまらない話題を提供することを企図として開講した。

講師には大西正也氏（株式会社チャイナコンシェルジュ代表取締役社長）、博多玲子氏（株式会社集英社ビジネス書編集部編集長）、浅生亜也氏（株式会社アゴーラ・ホスピタリティーズ代表取締役）をお招きしご講演いただいた。受講者参加型ディスカッションでは、当研究所上席研究員の小渡章好先生（八戸短期大学ライフデザイン学科教授）、青森100年ブランド事務所代表で当研究所の客員研究員の藤代典子氏がコーディネーターを務めた。

大西氏は「選択肢はGLOBALに広がる～青森が世界から選ばれるために」と題して、自身が中国に進出している経験や、日々の目標設定などについてもご講演いただいた。博多氏は「女性誌編集者から見た青森観光の魅力」と題して、女性誌編集者の視点から青森観光についてご講演いただき、青森観光のモデルコースを提案していけば、さらに来訪しやすくなるのではと述べられた。浅生氏は「ライフスタイルに入り込むホスピタリティ産業のあり方について」と題して、自社のホテル再生の事例紹介やコンセプトとストーリーの重要性をご講演いただいた。講演後の受講者参加型ディスカッションでは、青森観光に関することや講師陣の取り組み、活動を継続することの課題などについて活発な意見交換がなされた。

クリスマスイベント2012 in 美保野

12月３日(月)、八戸大学学友会主催のクリスマスミサ及びイルミネーション点灯式が行われた。

総合実習館１Ｆエントランスホールで人間健康学部教授　木鎌耕一郎先生の共同祈願によるクリスマスミサが行われた後、赤や青など色鮮やかに点滅するイルミネーションに歓声が上がった。

続いて同会場で行われたパーティでは八戸短期大学「ウィンドアンサンブル」チームにより「クリスマスイブ」などのクリスマスソング４曲が演奏され、その素晴らしい演奏に拍手が沸きあがった。

最後に、プレゼントが当たるゲームが行われ一喜一憂していた。

平成24年度　父母と教職員の懇談会開催

平成24年度の八戸大学父母の会「父母と教職員の懇談会」が、10月28日に八戸大学会館において開催され、約30名の父母が参加した。

小野会長の挨拶では、父母の会の活動内容や活動方針等について説明がなされた。続いて大谷八戸大学学長が挨拶し、大学の様々な改革の取り組みや近況について説明、報告した。

次に、丹羽ビジネス学部長と吉田人間健康学部長が各学部の現状や教育の取り組みについて説明した。その後、保護者の皆様に知っておいていただきたいことをわかり易く説明することを目的として新たに説明会を設け、学生生活・講義ならびに成績・就職等々について、各担当教員から詳しく説明がなされた。保護者にとって、大学の仕組みや様々な学生支援について知ることが出来る機会となった。

個人面談では、カレッジアドバイザーが春学期末までの成績やゼミ・部活動での様子を父母に説明し、父母からの様々な質問、相談に応じていた。また、教務・学生・就職支援の各職員も父母からの相談を受けた。面談した父母は、教職員から直接聞くことが出来る有意義な時間となった。

懇談会は大学の状況を知り、また父母と教員が面談を行う１年に１度の機会なので、今後も多くの父母の方々に参加していただけるようにしていきたい。

「八戸大学」OB&OG訪問 part28

鬼怒川温泉　湯處「すず風」
専務取締役　鈴木　勝さん
（9回生）

プロフィール
栃木県立今市高校卒、八戸大学商学部９回生。大学卒業後はホテルなどでの勤務を経て、家業である温泉館の専務取締役となる。

■学生時代の思い出を聞かせてください。

一番の思い出は実行委員長を務めた学祭です。いろいろなイベントや模擬店、展示など準備が大変でしたが、委員長として大学の学生課との交渉では頑張りました。当時対応してくれたのは岩浪さんで、その時学んだものが今の仕事にも役立っていて最高の思い出のひとつです。それと内海ゼミでの思い出です。ゼミ長としてみんなをまとめながら、楽しい時間を過ごすことができました。テニスサークルの創部もしたんですよ、のちに廃部となりましたが。（笑）

■社会に出て感じていること、心掛けていることはありますか？

卒業後すぐに苗場スキー場のホテルに勤務しましたが、まずそこで「サービス業のいろは」を学びました。その後箱根の温泉で修行をして、いま経営をしている温泉館のオープンにあわせて帰郷し現在に至っています。いつも思うことですが、仕事での経験は当然のことですが、大学時代の経験も全てが今の仕事に活かされていると感じています。

現在ここ鬼怒川を含めた近隣の温泉郷は、原発の影響で観光産業が大きな打撃を受けています。また不景気の真っ只中でもありサービス業は大変厳しい状況ですが、「おもてなしの心」を大切にしてこれからも頑張っていきたいと思っています。

■後輩たちへのメッセージを！

八戸大学はとても素晴らしい環境ですね。その中でしっかりと、そしてのびのびと学ぶ、またそのことに感謝をしながら大きく成長してください。今でも感じていることですが、他の大学に比べて先生との距離が近いこと、親しくなれたことが自身の成長につながったと思っています。恩師との絆を深めて、また大学時代の仲間をたくさん増やして、これからの人生に活かして欲しいと思います。最後に、鬼怒川温泉にお出での際は是非お立ち寄りください、大歓迎いたしますよ。（笑）

アイスホッケー部
9年ぶり6度目の東北王者

11月25日㈰ヒルズサンピア山形スケートリンク（山形県）で行われた東北地区学生アイスホッケー選手権大会兼日本学生氷上選手権東北地区予選の決勝戦で本学アイスホッケー部は八戸工業大学に4対2で勝利し、9年ぶりの6度目の優勝を果たした。

インカレ予選となったこの大会で本学アイスホッケー部は初戦の山形大学に快勝、準決勝の東北福祉大学との接戦を制し決勝戦に進出。

決勝戦は、ここ数年、主な大会で一度も勝利のない同地区の八戸工業大学と対戦となり、1点を追う展開となった試合は、第2ピリオドの積極的な攻撃による連続得点で逆転、さらに第3ピリオドでパワープレイのチャンスにダメ押しとなる1点を挙げ試合を決めた。

9年ぶりに6度目の東北王者に返り咲いた八戸大学アイスホッケー部は栃木県で行われる第85回日本学生氷上選手権大会へ出場権（通算13回目：準優勝での出場を含む）を得、1月6日㈰から行われる大会初日の1回戦で関西学院大学と対戦する。

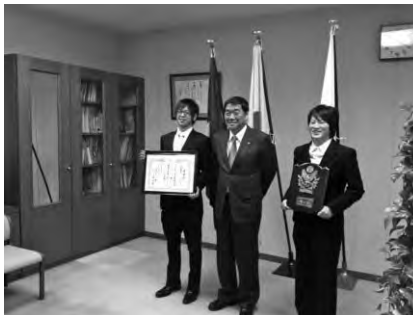
快挙！リーグ初参戦で2部昇格
－八戸大学ラグビー部－

ラグビーの東北地区大学リーグに今季から参戦した本学ラグビー部が3部リーグで全勝優勝し、2部昇格を果たした。

本学ラグビー部は、3部Aブロックの3チーム総当たり戦で3戦全勝で1位となり、3部Bブロック1位の福島大学と11月11日仙台市で行われた3部優勝決定戦で対戦。

前半12－14とリードを許したが、後半に逆転（22－14）し、34－28で勝利し3部での優勝と同時に2部昇格を決めた。

来季は、東北地区大学リーグ2部（6チーム）で1部昇格を目指すこととなる！



教員免許状更新講習行われる！

平成21年度から始まった教員免許状更新制度を受けて、夏季更新講習に続き冬季も大学・短期大学において12月22日㈯から27日㈭の日程で、必修1講習及び選択6講習の更新講習を開催した。この制度は教員免許の有効期間を10年間とし、更新時には2年間で30時間以上の講習受講を義務づけるもので、講習は文部科学省の認定を受けた大学が実施、県内では本学のほかに弘前大学等で開催されている。

青森県南はもとより岩手県北をも含めたこの地域で、最も多くの開設講習を有する高等教育機関として昨年に引き続いての開催となったが、今回は延べ238名の先生方が受講し、今年度の夏季・冬季を合わせた受講者数は合計で957名となり、過去最高を記録した。

平成24年度 クラブ・サークル活動報告会

12月21日㈮平成24年度八戸大学クラブ・サークル活動報告会が八戸プラザホテルにおいて開催され、学生、外郭三団体役員、教職員など約250人が参加した。

今年度の八戸大学クラブ・サークルは、硬式野球部の全日本大学野球選手権大会への出場、アイスホッケー部の東北地区大学選手権での優勝による日本学生氷上選手権大会出場など各方面にて八戸大学の存在をアピールした。

なかでもリーグ戦初参戦となったラグビー部が、３部リーグで全勝優勝し２部昇格を決めるなど今後の活躍が期待される。

また、硬式野球部による少年野球教室やキャリアサポート研究会による各高校での「ワークショップ」開催、ネットワーカーズによる「おこっぺいもの現状調査」や「いかさば祭り」への参加など地域に根ざした活動も多く、文武共に活躍の年となった。

報告会では、こうした各クラブ・サークルの主な戦績や活動報告のプレゼンと、今年度顕著な成績を残したクラブ・サークルへの表彰及び高島アイスホッケー部監督と工藤ラグビー部監督に感謝状が贈られた。

その後に催された懇親会では、各クラブの趣向を凝らした余興や豪華景品が当たる抽選会も行われ大いに盛り上がった。

参加した各クラブ・サークルの学生は、１年間の活動を振り返ると共に新たな目標に向け、気持ちを新たにしていた。

平成24年度表彰のクラブ・サークルは次の通り。

優秀賞：硬式野球部、アイスホッケー部
敢闘賞：バスケットボール部（女子）、ラグビー部
文化賞：キャリアサポート研究会
感謝状：高島健一アイスホッケー部監督
工藤祐太郎ラグビー部監督

地域再生フォーラム
―八戸ベンチャーサミット2012―

「地域再生フォーラム―八戸ベンチャーサミット2012―」を平成25年１月11日㈮、八戸パークホテルにて開催した。このフォーラムは「震災を踏まえた新たなサービス業ビジネスモデル調査提案事業」（青森県三八地域県民局委託事業）の一環として開催し、八戸地域を中心として約100名が参加した。

このフォーラムは、首都圏の起業家等との交流を通じ、地域のサービス業等の再生を支援することを目的に開催した。基調講演では、新事業をはじめ経営コンサルティングを手がける本荘修二氏（本荘事務所代表、多摩大学客員教授）による基調講演では、『「起業家精神はみんなのもの」～自分らしさ happiness ～』と題して講演し、起業家精神とはどういったものか、自分にとっての幸せ（happiness）とは何かを考え、「幸せ」についての錯覚、報酬と成果・パフォーマンスの関係などについて話した。「行動・苦労なくして、得るものはない」、「困る前に困るな」と言った言葉が印象的であった。

ショートスピーチではプロフェッショナルコネクターの勝屋久氏（勝屋久事務所代表）を筆頭に、１月９日㈬～１月11日㈮に開催した「日本一受けたい集中講義 in 八戸大学」（青森県三八地域県民局委託事業）の講師を務めた、経営者の方々が参加者に熱いメッセージを送った。

フォーラム終了後に、同ホテルで行われた情報交換会には約70名が参加し、講師陣を囲んで交流を深め、参加者同士での情報交換も活発に行なわれた。

１月９日㈬～１月11日㈮の３日間で「地域フォーラム」と「日本一受けたい集中講義」を合わせて、延べ約1300名が参加して学び、貴重な交流の場となった。

実習報告会 －保育の専門性を探求－

平成24年11月14日㈬、幼児保育学科の実習報告会が八戸大学会館において開催された。実習報告会は、施設、保育所、幼稚園のすべての実習を終えた２年生が、実習での経験や学びを共有し、新たな実践へ繋げる取り組みとして毎年11月に開催している。報告者は各施設の実習生からそれぞれ選出され、報告資料の作成や当日の司会進行など２年生が主体となって報告会を運営している。１年生にとっては、先輩の学びや体験の報告を聞くことで、実習に向けての目的や取り組むべき事柄を明確にし、今後の実習への心構えや準備をする良い機会ともなっている。報告会には実習施設からもたくさんの先生方にご出席いただき、報告者の実習施設から参加いただいた先生によるご講評は、これから社会に一歩を踏み出す学生達の大きな励みとなっている。同法人の光星学院高等学校保育福祉科の生徒も毎年報告会に参加しており、今年も28名の生徒が熱心に報告に耳を傾けていた。

今年度の報告者は、施設実習より吉田瑠凜さん、保育所実習より鈴木ゆき乃さん、幼稚園実習より加藤彩香さん、加藤愛美さん、高松里緒花さんが選出され、実習でのエピソードや１年生に向けてのアドバイスなど一人ずつ登壇し発表を行った。発表後には質疑応答の時間が設けられ、フロアからは活発に質問が出されるなど活気ある報告会が展開された。また、発表の合間には学生による手遊びが実演され、会場が一つになって手遊びを楽しむ場面もあり、幼児保育学科ならではの和やかなそして有意義な報告会を行うことができた。

実習は、学生が学内で習得した知識や技術を主体的に実践し、体験を通して乳幼児の理解や支援の仕方を学ぶ場である。これらの体験を通して学生一人一人が自らの課題を明確にし、実習報告会において更に学生同士が学び合うことで、学生の中に保育者としての使命感や責任感、そして保育の専門性を探求していく心が育つことを願っている。

ゼミナール研究成果報告会を開催

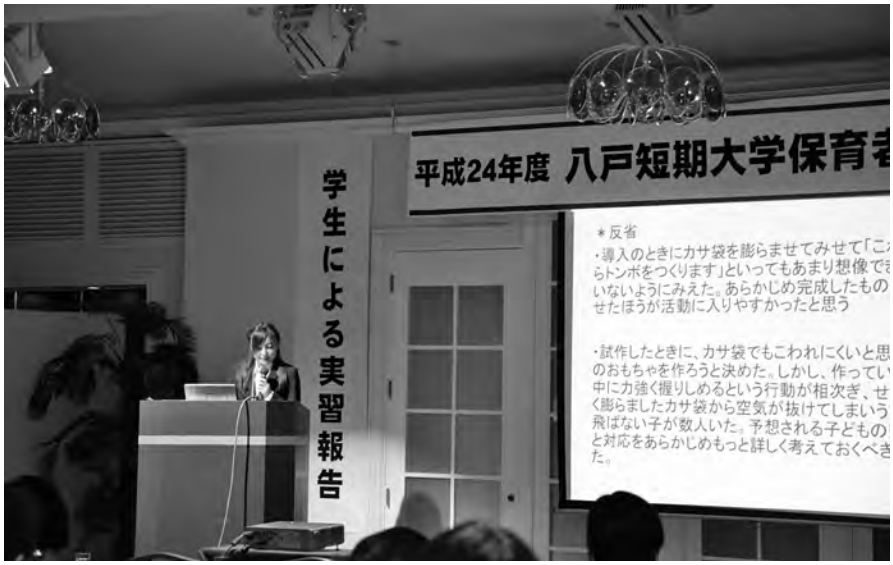
平成24年12月12日㈬、八戸大学会館において、幼児保育学科のゼミナール研究成果報告会を開催した。これは一年間のゼミナール活動の集大成として毎年行っているものだが、今年度は初めて活動時間を毎週確保したこともあり、どのゼミナールでもパフォーマンスに工夫を凝らし、充実した発表を繰り広げた。また、２年生だけでなく、１年生が活躍している様子にも目を見張った。

内容はさまざまであり、音楽、美術・造形、体育（ダンス）、児童文学・絵本の読み聞かせ（おはなし会）から、幼児英語教育、保育教材、食育やいじめ、児童虐待問題まで、多岐に渡るテーマを本学科らしい切り口で扱っていた。中でも異彩を放っていたのが、「明日へ～東日本大震災　小さな命を守るため～」と題した発表である。これは学生が被災地域の保育所に出向き、保育者からお話を聴いたり子どもと関わったりしてきた成果をまとめたもので、このときばかりは会場が水を打ったように静まり、皆スライドの画面を見つめて発表に聴き入っていた。

幼児保育学科　保育者養成懇談会

平成24年12月５日(水)、幼児保育学科主催「保育者養成懇談会」を開催しました。保育者養成懇談会は、リカレント教育及び情報発信の機会や場として、また次年度の実習に向け、幼稚園や施設（保育園）等の先生方と交流を深める場として企画されているものです。今年度は、実習によって成長した学生の姿を見ていただくため実習報告会も併せて開催することにしました。

第１部の研修会では「乳幼児のことばと発達」というテーマでＮＴＴコミュニケーション科学基礎研究所の麦谷綾子氏よりご講演いただきました。乳幼児のことばの発達課程を科学的な視点から、また保護者のかかわりや語りかけの重要性なども具体例を交えながらお話し下さいました。多くの参加者は、ことばの発達課程を再確認するとともに、改めて自分が行っている保育が適切かどうかを意味付けし判断することができたと感激していました。第２部では、２年吉田瑠凛さん（施設）、鈴木ゆき乃さん（保育所）、加藤愛美さん・加藤彩香さん・髙松里緒花さん（幼稚園）が実習報告を行い、その後、中居林保育園園長の椛沢先生より実習に際する学生の心構えと実習先の受け入れ体制なども含めたご講評をいただきました。またご参加下さった皆さんから、実習において就職を視野に入れた細やかな指導が必要であるということや、八戸短期大学と協同し保育者となる素晴らしい人材を育てていきたいというご意見をいただきました。養成校としての重責をかみしめる一方、地域の方々と一緒に保育士を育てていくことができる喜びと改めて感謝の意を繰り返す時間となりました。



看護学科　第２回卒業研究発表会

看護学科の卒業研究発表会が平成24年12月17日に開催された。卒業研究は、看護学の専門分野から各自がテーマを決定して２年次から取り組んできたものである。今年度は、第２回の発表会として、11グループから代表１名計11名が研究成果を発表した。研究は、質問紙調査、文献研究など、テーマも多義にわたり興味深いものとなった。また、今回は他学部の教員からも多くの質問が出され研究を発展させるための示唆を大変多くいただくことができた。さらには熱心に聴講した１、２年生たちからも質問がいくつか出されたことは昨年と大きく違った状況であった。１、２年生からは、「将来の自分の課題を考える参考にした」「先輩たちのように立派に発表したり、発表会を運営できるようになりたい」などの感想が聞かれ、全学年にとって有意義な時間であった。ご協力いただいた方々に深く感謝申し上げます。

（看護学科長補佐　仁木　雪子）

光星学院高校専攻科

平成24年度 校外実習

平成24年11月５日㈪から15日㈮までの二週間、自動車科１年生11名が県南地区11社の自動車整備工場（ディーラー６社、民間５社）に分かれ、学校では経験できない自動車整備士の仕事の楽しさや大変さを体験した。校外実習は、実社会における自動車整備業界の役割と整備士のかかわりを体験するために、毎年１年生を対象に実施しており、実習受け入れの確認から就業時間等の事前の打ち合わせまで、すべて学生自身が行っている。

今年度は、初雪の予報が早めに出たこともあり、タイヤ交換のお客様が集中し、タイヤの交換作業の忙しさを経験した学生が多かった。また、車検整備の流れや最新のテスターラインの使用法など、授業とは少し違う技術をベテラン整備士の方に教わった学生もいた。整備の技術だけではなく、プロとして、自覚や責任を持って仕事に取り組む大切さを実感してきた学生も多くいた。

今回の校外実習での経験と反省を、これからの学校生活に活かし、二級整備士合格に一歩でも近づくことを期待している。

低圧電気取扱講習

自動車科２年生を対象に、１月23日㈬10時から16時まで、専攻科（実習場）において青森県自動車整備振興会教育課から講師２名を招き、低圧電気取扱講習が行われました。

この講習は、トヨタの「プリウス」等のハイブリット・カーや、今後主流になると思われる電気自動車、燃料電池自動車の為の講習です。これらの自動車には200ボルト以上の高電圧系統があるため、整備作業中の感電事故の防止を目的に行われます。このような自動車を整備する者には、労働安全衛生法により低圧電気取扱業務特別教育の受講が義務づけられています。

前半の講習では、法律による受講の義務づけと、青森県は特別に学生が受講できることの説明から始まり、全メーカー合わせて該当車種が既に50車種程に及んでいることなどの説明があり、学生からは驚きの声が上がっていました。

後半の実技は、３代目プリウスとアクアを教材に使い、高電圧系統の確認や感電防止対策、また適した整備方法等をチェック用紙に書き込みながら熱心に受講していました。

なお、今回の講習受講者全員に、低圧電気特別教育修了証書が交付されました。

学生会主催行事 ボウリング大会開催

12月21日㈮午前10時から、専攻科全学生と教職員の総勢110名が八戸市内にある「ゆりの木ボウル」に集合し、学生会行事の平成24年度ボウリング大会が開催されました。

日渡校長代行の挨拶の後、各クラスで選ばれた代表４名の学生により始球式が行われ、大会がスタートしました。

４～５名ずつ各レーンに分かれ、２ゲームのトータルスコアで争われる大会です。投球フォームが綺麗で高得点を出す学生や、初めてのボウリングでガーターを連続する学生など、様々な学生がいて、好プレーあり珍プレーありの見ていても楽しい大会でした。

ちなみに、男子の最高得点者は介護福祉科１年、大久秀憲さん（委託生トータル339）、女子の最高得点者は介護福祉科２年、前田あゆみさん（委託生トータル213）でした。

来年度も大会の内容やゲーム数などを工夫し、学生会行事として盛り上げていきたいと思います。

光星学院高校

サンタ・プロジェクトに参加して

サンタプロジェクトとは、東日本大震災の記憶を風化させないために、いろんなイベント等を通じて多くの人々との交流を図り、被災地の方々の心をサポートすることを趣旨としております。協賛として日本医師会・日本歯科医師会、丸紅、ロッテ、日本及びフィンランド政府、また、早稲田大学をはじめとするその他７大学の大学生の協力も頂きました。そしてお互いがお互いのためにの「サンタクロース」になることを目指しており、東北からは、本校と仙台育英学園の中等部の生徒が選ばれ、12月１日から４泊５日の日程で沖縄を訪れました。今回沖縄が選ばれたのは、被害地から一番遠いところが風化しやすいとの理由からです。本校からは、普通科特進コースの堀合真帆（２年生）上村公悟、柿本元、濵谷紗凌也（１年生）の４名が参加し、被害３県といわれる中、青森県そして八戸市も1146億円の大きな被害を受けたことや日夜多くの人が助け合い、そして復興に向けて今も頑張っていることを発表して来ました。さらに、本校での震災時におけるラジオ取材や生徒達のボランティア活動の件も発表し、参加したフィンランド・ポルトガル・カナダなどの海外の方々をはじめ多くの沖縄の方々からも高い評価を頂きました。また、沖縄の方々からは、伝統芸能のエイサーを通して被災地へ激励のエールを送ってもらいました。

最後に東日本大震災により、私達は多くのもの失いましたが、それ以上に前に向かって進む勇気と何事にも負けないで行動することを学びました。このことを本校生徒が多くの方々の前で自信を持ってきちんと発表をしたことは、今回の目的を達成しただけでなく、生徒達自身も大きく成長できたものと思います。

工業技術科 工業技術コース

トレース技能検定１級　５名合格

（機械系２名、電気電子系２名、建築土木系１名）

今年度のトレース技能検定で５名が１級に合格しました。10年前から２級合格者に対して取り組み、毎年合格者を出してきましたが、３年前の４名を上回る過去最多の合格者です。しかも、機械系、電気電子系、建築土木系の全分野での合格は初めてです。

トレース技能検定とは、図面のトレーサーとしての専門知識及び技能の程度・能力を判定する試験で、実技と理論の両方が審査基準に達しないと合格することができません。４級から１級までありますが、１級はその頂点に位置するものです。審査基準の中に、「各分野に関連した知識と印刷原図として使用できる程度の高度な実技能力を持ち、該当分野の技術指導ができる。」と１級の程度が記されています。１級では鉛筆でなくインクで書きあげるため失敗の許されない集中力が必要となります。また図面がきれいで正確なだけでなく、原図の不備を探し出し訂正する能力も必要とされます。他に、少しの油断や慢心がミスを引き起こします。実際、これにより実力がありながら合格に至らない者もいました。１級は、知識や技術だけでなく集中力や精神面も問われる高いレベルの検定なのです。

合格した５名は放課後遅くまで残り、夏休みにも出校し練習に励みました。そしてこの努力の結果、全国でも合格者が数少ない難関を見事突破することができました。今回に満足することなく、少しでも多くの生徒に１級の資格を取得させるべく今後も指導していきたいと思います。

留学生のチェンターさん、卒業
～３年間を振り返って～

私は、カンボジアのカムリエン高校から来ました。光星学院女子寮に住んでいます。

私の家はタイの国境近くにあります。国境まで車で５分間かかります。その村には幼稚園がなく、私は７歳で小学校に入学しました。家から中学校までバイクで30分、高校には、１時間かかって通学していました。カンボジアは赤道に近く、１年の平均気温は27度でとても暑い国です。日本のような四季はないので、日本で四季を体験してとても感動しています。

私は中学３年生の時、地雷処理の支援活動をしている高山さんから日本語を学び、高校１年生の途中で日本に来ました。日本に来るきっかけは、当時校長先生だった副理事長先生が、私の通うカムリエン高校に井戸を寄贈し、姉妹校の提携を結んだことでした。

この留学中に、ラジオやテレビや新聞などの取材を沢山うけました。寮や学校生活のことなど毎月、取材が来て放送されました。また、カンボジアでは体験できない多くの経験ができました。修学旅行で沖縄・京都・大阪に行ったこと、２１時間もバスに乗って甲子園に行き、吹奏楽部員として「優勝してほしい」と一生懸命応援したことなど、どれも素晴らしい思い出です。書道、華道、茶道、着付け、日本料理など日本の文化もたくさん学びました。

カンボジアでは、電気を使えない所がたくさんあります。私のタサエン村は水道や綺麗な道路や電気などまだありません。みんな、井戸や池や川の水で生活しています。ランプで生活する家族もいます。道路は雨が降ると田んぼのような泥になります。学校では、電気がありません。トイレがありますが、水がないので、ほとんど使えません。体育館や職員室や、会議室もありません。スクールバスもないです。親の送り迎えもありません。

私は、日本の文化や３年間の経験をカンボジアの人たちに伝えます。そして、将来、日本とカンボジアの架け橋になりたいです。

日本に来て、毎年の３月１日には、卒業式があります。先輩たちと別れるのが寂しいと思いましたが、今年は私が卒業します。

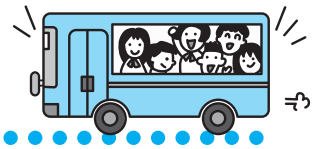
光星学院高等学校での生活を、日本のお父さん・お母さん、先生方、学校の皆さんや日本の皆さんが、いつも応援してくれて本当に心から感謝しています。いつまでも、感謝の気持ちを忘れません。日本に来た2010年３月17日は、私の大切な記念日です。

皆さんも高い目標に向かい、チャレンジしてください。

（平成25年１月15日　３学期始業式に全校生徒の前で発表した作文から抜粋）

修学旅行

広島～四国香川県～大阪ＵＳＪ～京都



「修学旅行で金刀比羅宮にお参りに行ったことは、一番印象深く残っています。参拝したことで、努力することの大切さを改めて感じることができました。一段一段石段を踏みしめる度に、登りつめた先にある、光への期待が高まるのを感じ、足の裏から金刀比羅宮、さらには象頭山からもエネルギーのようなものをもらえたような気がします。」

これは、修学旅行思い出文集作成のために、生徒が書いた感想文の一部です。平成24年度の修学旅行は、11月12日から16日までの日程で、広島・香川・関西を旅して来ました。この学年は407名が入学した学年で、近年では最大規模の旅行隊になる予想から、例年よりも早い準備をしました。生徒からのアンケートなどを参考にし、目的地を決定しましたが、その決め手となったのが東日本大震災でした。まだ余震活動が活発な中入学し、日々不安な学校生活を送っていたこともあり、全行程での安全確保を最優先に考え、また、福島の原発事故を踏まえて、被爆地である広島へ向かい、平和教育を行うという目的を掲げ行き先を決定しました。結果は、生徒の感想文からも読み取れるように、修学旅行の目的を十分に果たせたと実感しています。

初日は、一路広島へ向かい、旅行のテーマである平和教育を目的に「平和記念公園」でのセレモニーを行いました。生徒達は、浮つくこともなく、追悼の意を表し、立派にやり遂げました。そして、２日目はホテルに隣接する桟橋からチャーター舟に乗り、宮島、厳島神社を見学し、広島から瀬戸大橋を渡り、四国香川県へとバスは進みました。バス10台が連なって入るパーキングサービスなどでは、一般の方々から「どちらの学校ですか？」などと驚いた様子で聞かれていました。香川では、讃岐うどん作り体験、金刀比羅宮を参拝し、生徒達が最も楽しみにしていた大阪ＵＳＪへと向かいました。風が強く、たいへん寒い日でしたが、約６時間元気いっぱいアトラクションなどを堪能し、全員がきちんと決められた時間にホテルに戻って来ました。そして４日目、春にリニューアルした、なんばグランド花月に行きました。感想文を読んで、「テレビで見る芸人さんを生で見ることができてとってもうれしかったし、おもしろくて涙が出て、また、最後の新喜劇では感動して涙が出ました」という文章が印象的でした。そして大阪城で昼食を取り、バスは京都清水寺へと向かいました。そして最終日、金閣寺を見学し、全行程を無事終え、全員が元気な姿で八戸へ帰ってきました。ここ近年では最大規模の修学旅行でしたが、生徒達の行動はたいへん立派でしたし、たったの五日間で、とても頼もしくなったように思え、「さすがは全国区の光星だなぁ」と実感した旅行でした。

イルミネーション・クリスマスの集い

イルミネーションも今回で５年目を迎えることとなりました。2011年３月11日の東日本大震災からおよそ２年。『復興』の兆しはまだ見えず、ほど遠いようにさえ感じます。しかし、全国各地で『復興』を合い言葉に懸命な支援活動が続けられています。地域の皆様の心の『癒し』になれば、という思いから本校では昨年と同様にイルミネーションを点灯させて頂くことにしました。また校舎内では、生徒会の生徒たちが、１階エントランスと２階ラウンジの２ケ所に、色鮮やかな大きなクリスマスツリーを飾り付け、心温まるクリスマスショーを創り出していました。

11月30日16時５分より短い時間でしたが、本校生徒会、各部活動生たち、大勢の生徒が見守る中、イルミネーション点灯式が行われました。

生徒会長の挨拶に始まり、吹奏楽部による生演奏とハンドベルによる演奏が続き厳かな雰囲気で式は進み、カウントダウン。美しいイルミネーションが前庭を明るく照らし、あたたかな光に包まれて式は終わりました。

12月21日、クリスマスの集いが開催されました。静寂の体育館に鳴り響く鐘の音。保育コースの生徒たちが歌う聖歌。放送部の生徒の聖書朗読。八戸大学教授、木鎌先生の講話。吹奏楽部によるハンドベルの生演奏。そして鐘の音。このようにクリスマスの集いは厳粛に行われました。クリスマスの集いに続き行われた、本校卒業生の山本雅也さんによる凱旋ライブ。高校時代に所属していた空手道部で出会った仲間との約束、「歌手になる」という夢を叶えた彼の歌声は、後輩たちの歓声とひとつになり感動のうちに終わりました。

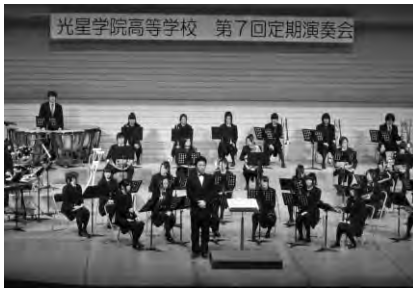
第７回　定期演奏会を終えて

平成25年１月５日㈯八戸市公会堂にて第７回定期演奏会を開催致しました。

今年度の定期演奏会の第１部は、2011年全日本吹奏楽コンクール課題曲「南風のマーチ」、２曲目は吹奏楽において、20世紀を代表する作曲家、Ａ.リード氏の「アルメニアン　ダンス」、３曲目には、今年度、吹奏楽コンクールの自由曲として演奏した「ルイス・アロンソ結婚より」間奏曲、を演奏致しました。第２部では、会場の皆様と共に楽しめる企画・演出で子ども向けの曲を演奏し、１年生部員によるのパワフルで、しかも、可愛いダンス隊に会場の皆様から多くの拍手を頂きました。

第３部では、ポップスを中心に構成し、司会のコントや歌などを盛り込みながら、元気いっぱいに演奏させて頂きました。また、３部の最後といえば毎年恒例の光星学院高校吹奏楽部の定番曲、「オーメンズ・オブ・ラブ」を演奏し、終演いたしました。そして、この演奏会で３年生は最後のステージとなりました。１・２年生の部員達は先輩達の偉大さを再認識し、更なる成長に向け、決意を新たにしていました。演奏会のアンケートには「みなさんの演奏から元気をもらいました」「光星らしい素晴らしい演奏会でした」との声もいただき、お客様に元気や勇気を感じ取って頂けた喜びで一杯になりました。これからも、私たちの演奏を楽しみにしてくださっている方々へ光星サウンドを届けられるよう頑張り続けます。

このような演奏会を開催できますのも、地域の皆様をはじめ、光星学院高等学校ＰＴＡ、同窓会、後援会の皆様、演奏会運営に大きく尽力頂いていました公会堂ホール職員の皆様、演奏会のポスターを制作してくださった美術部、当日の運営にご協力いただいた放送部、演劇部の皆様、そして、何よりも当日会場へ足をお運び頂きましたお客様のお陰と、心から感謝申しあげます。ありがとうございました。これからも楽器を演奏できることに感謝し、演奏活動を通して様々な事にチャレンジし、日々精進していきたいと思います。まだまだ、拙い演奏ではありますが、一音一音を大切に、精一杯頑張って参りますので、これからも光星学院高等学校吹奏楽部をよろしくお願い致します。



野辺地西高校

「高校生による、子供の読書活動アシスト」に応募、展示

青森県立図書館の児童閲覧室に、12月のテーマ「クリスマス」の壁画を、本校人間福祉系列の３年生が制作したものを展示しました。

同図書館が募集した「高校生による、子供の読書活動アシスト」に応募したもので、今月は本校「野西高33ＨＲ」など３校が担当して作成しました。「子どもたちのために作った素敵なディスプレイが、本の世界を彩ってくれています。私たちでは表現できないものを作ってくれました。来年もまたこういう企画をやりたいと思っています。」とは担当職員の清水さんの談。

生徒達は、苦労しながらも笑顔で喜ぶ子供たちの顔を思い浮かべながら、一生懸命に作品制作に取り組んでいました。制作に携わった生徒達は「今後も、いろいろな場面で参加協力していけたらいいなと思っています。」と微笑みながら話していた。

ハイサー～！ 沖縄、もうかりまっか！ 神戸・大阪への 修学旅行

12月10日～14日まで、沖縄・関西への修学旅行を実施した。沖縄では伝統的文化・歴史・平和・自然に触れ、大阪・神戸では我が国を代表する経済・産業の集積地を訪れ、文化・経済に触れながら見聞を深めることを目的に設定した。また、公衆道徳を守り、団体行動を通して社会性・連帯性を養うことも大きな目的でもあった。

10日朝は、前日からの雪の影響もあり路面はアイスバーンで、冷たい風が肌を刺す青森空港から飛行機に搭乗、４泊５日の旅行をスタートさせた。

沖縄では、平和記念公園・ひめゆりの塔・首里城などを見学することで、平和学習の意義と重要性について学びました。

また、美ら海水族館や［奇跡の１マイル］で知られる国際通りでの自主研修では、『触れて』『感じて』『学ぶ』ことで、沖縄を満喫したと思います。

関西では、神戸異人館や海遊館、生徒たちが一番楽しみにしていたＵＳＪでの自主研修、ハリウッドが世界に誇る映画文化、エンターティメントやアトラクションに酔いしれ、ハリウッド映画の世界を余すところなく楽しんでいました。

今回の修学旅行では、出発前から『団体行動』において、一人一人の責任が大事であると話してきました。生徒たちは、１人が乱せば全体が乱れるということ、

一人一人の意識で変わるということを良く理解し、行動してくれました。結果、『ノロウイルス』『北朝鮮弾道ミサイル』を心配しつつ出発した修学旅行も、帰路の那覇空港で【北朝鮮の長距離弾道ミサイル】が沖縄上空を通過したときには少し動揺しましたが、それ以外は、天気にも恵まれ一人の脱落者もなくこの修学旅行が終えられたことを喜びに感じております。

最後に、今回の修学旅行が両親を始め、添乗員やホテルの従業員…など、たくさんの大人に支えられて成り立っていたことを認識し、感謝してほしいです。ご苦労さまでした。

文化・スポーツ発表会開催

12月20日㈭文化・スポーツ発表会が、本校体育館で開催された。

昨年に続いて２回目となった今回は、体験発表（部活動主将「一年間を振り返って」）と生徒実演（文化部及び空手道部）の二部構成で実施され、それぞれの活動においての成果を全校生徒の前で発表した。

生徒実演では、ものづくりクラブのロボコン参加ロボットのデモ走行、続いて空手道部の組み手模擬試合、形の演武を披露。発足したばかりのダンス愛好会のダンス、１年生芸術の音楽選択生のハンドベル、人間福祉系生徒のピアノ、のへじ祇園囃子保存部、それぞれの演奏が披露された。

野西高トピックス
TOPICS

創立 40 周年、記念撮影

12月17日㈪、本校創立40周年記念事業の一つとして、生徒と職員全員で記念撮影をしました。当日は悪天候も予想されましたが、好天に恵まれみんなのさわやかな表情を記憶と記録に残すことができました。

平成25年度生徒会役員任命式

12月20日㈭平成25年度生徒会役員任命式が行われました。

生徒会長が代表して学校長より任命証を受け、新たな生徒会の活動を開始しました。

八戸短期大学附属幼稚園

東中学生による パペットロボット幼稚園公演

「技術・家庭科の３年間のまとめ学習として、幼児向けのパペットロボットを用いて、脚本・演出による寸劇を実際に幼稚園の教室で出張演技することで、幼児の心身の発達を考えた遊びや、関わり方の工夫をして触れ合い活動に意欲的に取り組ませる」をねらいとして、毎年八戸市立東中学校の生徒が、子ども達にリモコンで動く「パペットロボット」を披露しています。

地域との交流が必要とされる近頃ですが、なかなか日程が合わず苦慮している中で中学生との触れ合いは、園生活とは違った驚き、発見へと広がっていきました。寸劇を見た後は、実際にリモコンを使ってロボットを動かす体験もでき子ども達は、目をキラキラさせながら夢中になって動かしている傍らで優しく見守っている中学生の姿がとても微笑ましく印象的でした。

＝中学生の感想文から＝

子どもの前では恥ずかしさが全くなく、逆に盛り上げてもらいとても楽しく演技できました。園児を見ているだけで、自然と笑顔になれ、幼児の力はすごいなと思いました。いい経験ができてよかったです。

聖アンナ幼稚園

木工教室

本園では、長年、給食で大野村の木の器を使用しております。この度、大野木工生産グループさんにご来園頂き、どんぐりから木に育ち、器になるまでの過程を、実際に目の前でろくろを使って、板から器にひく作業を見せていただく「木工教室」が開催されました。削れたかんなくずの匂いをかいだり、触ったりすることで子どもたちから驚きの歓声。また、器の裏に作成者の印があることも紹介され、いつも何気なく使っていた木の器は、給食の時間になると食べた後、子どもたちがお互いに嬉しそうに裏を見る姿が見られました。「自然や木への関心」「モノつくり」「木のぬくもり」など愛着も一層深まっているように思います。

第二しののめ幼稚園

卒園製作「えんぶり」烏帽子

２月の声を聞くと、八戸地方を代表する民族芸能で、国の重要無形民族文化財に指定されている「えんぶり」の烏帽子製作に年長児たちは取り組みます。「えんぶり」はその年の豊作を祈願するための舞です。年長組さんはその舞の中で、大夫と呼ばれる舞手が頭につける馬の頭をかたどった華やかな烏帽子作りをました。幼稚園生活で手や指を使って経験してきた創造体験（書く、切ること、折ること.色を付ける,貼る、のばす、丸める、ちぎる、重ねる）からできた烏帽子です。心も身体も大きく豊かに成長した年長児の烏帽子作品は小さい組さんの憧れです。

可愛い鬼・強い鬼・優しい鬼いっぱい

（鬼は外、福は内）元気な掛け声がホールいっぱいに響き渡りました。今日は節分豆まき会です。様々な材料を使って鬼のお面を作りました。満３歳児は発泡スチロールで、３歳児は大きな封筒で、４歳児は新聞紙を丸めて、５歳児は牛乳パックと様々なものを土台にして思い思いに作った、世界にひとつしかない鬼のお面をかぶり、わくわくしながら、さあまめまきの始まりです。

春よこい。福よこい。

びわの幼稚園

楽しいクリスマスお遊戯会

12月の第一日曜日、２日、びわの幼稚園では野辺地町中央公民館ホールを会場にご来賓をお迎えし、年長児11名、年中児４名、年少児７名の合計22名の園児たちによる、今回で最後となる第35回目のクリスマスお遊戯会を開催しました。

全園児22名でどのようなお遊戯会になるかと心配しておりましたが、ご父母の皆様のご支援ご協力をいただき、十分に感動できたクリスマスお遊戯会となりました。

プログラムは、年中・年少さん女子合同のお遊戯「かわいい姫ちゃん」から始まり、年長さん男子「忍者風太郎くん」、年中・年少さん男子合同「カレー王国」、年長さん女子「ランランアンブレラ」と一生懸命に練習してきた四つのお遊戯を楽しく踊りました。

11月７日㈬八戸市公会堂で行われた星の子音楽会から約一ヶ月間、気持ちを切替え良くもこのように上手に出来たものだと感心しております。改めて、子供たちが持つ素晴らしい能力の高さに驚かせられ、皆が上手で「ちびっこ芸術家さん」でした。

劇では年中・年少さんが「おおきなかぶ」、年長さんは「七つ星」を披露しました。それぞれの役柄の衣装を準備して物語に合わせ、みんなで助け合い協力しながら遊戯する姿から子供たちの「思いやる気持ち」に多くの拍手をいただきました。

お遊戯、劇が終わると園児たちは得意の合奏、歌の部です。

ハンドベル演奏の「Home, Sweet Home」の場面では会場内が静まり返って園児たちの奏でる音に聞き入っておりました。

終わりに「あわてんぼうのサンタクロース」、「赤鼻のトナカイ」の歌に合わせて登場してきた園長が扮したサンタクロースさんからちょっぴり早いクリスマスケーキをいただき三大行事の一つ「びわの幼稚園、最後のクリスマスお遊戯会」が無事終えました。

▲インカレ予選終了後の記念写真

FW58 2年 松本太地（岩手高出身）▼

八戸大学アイスホッケー部 東北王者に返り咲き

▲FW19 4年 横田　優（光星高出身）

◀FW77 3年 川口慎一郎（光星高出身）と FW13 2年 及川卓弥（八商高出身）

▲FW14 1年 河村謙佑（八工大一高出身）

▲DF8 4年 金谷　侑（光星高出身）

CAMPUS KOSEI
第28号

発行　学校法人光星学院
〒031-8544 青森県八戸市美保野13-98　TEL 0178－30－1411
URL　http://kosei.hachinohe-u.ac.jp/